

手にある形

最も身近な自然である、自身の身体から生まれるかたち。自然の造形の複雑さや面白さを制作を通じて体感する。両手で器の形を作り、石膏を流し込む。硬化したら、石膏を離し乾燥して完成。

漆芸への応用

漆芸の技術は、多くの工程からなるものが多い。大学の限られた授業の中で、効果的に作品作りを行える事を念頭にこの課題は考えられた。上面は鏡面に仕上げることを考え石膏を流す。乾燥した後、糊漆にて和紙を貼る。後は、下地をして呂色上げを行う。下の参考作品では、呂色上げ後、錫粉を蒔いて仕上げてある。胎を石膏で作るため、漆の工程に時間を多く取る事が出来る。

